

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: ごみ収集回数	指標の求め方: ごみを収集した回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: ごみ収集量	指標の求め方: クリーンプラザくるくるに搬入された量

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	311 311	311 311	312 310		310 310	310 310	310 310		311 311	311 311	311 311	311 311	
	成果指標 1 (単位/kg)	計画値 実績値	3,070,530 3,121,300	3,022,080 3,049,810	2,982,230 2,928,210		2,926,320 2,926,320	2,878,820 2,878,820	2,830,480 2,830,480		2,790,110 2,790,110	2,734,830 2,734,830	2,687,560 2,687,560	2,640,640 2,640,640	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 収集内容に変更は無い。「クリーンプラザくるくる」へ搬入される家庭ごみの委託収集の量は、前年度と比べやや減少している。	自己分析: 収集内容に変更は無い。「クリーンプラザくるくる」へ搬入される家庭ごみの委託収集の量は、前年度と比べやや減少している。	自己分析: 収集内容に変更は無い。「クリーンプラザくるくる」へ搬入される家庭ごみの委託収集の量は、前年度と比べ減少している。	判断理由: ごみの収集量は計画値より若干多いものの、分別収集のルールも定着しており、委託業者と連携を図り安定した収集運搬が行われている事から良好と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:
	今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 平成30年7月から令和7年6月までの収集運搬契約を委託業者と締結していることから、現行の収集内容を基本的に継続しながら、ごみ収集の状況の変化やより効率的な収集への対応について委託業者と協議を行っていく必要がある。				R8:				R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：水質検査測定箇所数	指標の求め方：浸出水検査・ダイオキシン類検査実施箇所数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：基準不適合件数	指標の求め方：基準値を上回った件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 実績値	11 11	11 11	11 11		11 11	11 11	11 11		11 11	11 11	11 11	11 11		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0 0	0 0		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている											
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない											
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
	総合評価				良好である											
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： ごみ処理場は地域住民の理解を得、運搬して維持管理を行っていかねばならない施設であり、環境の悪化を防ぐための整備や検査は管理する自治体の責務である。ごみ処理場に係る維持管理は適正に行われている。	自己分析： 検査数値は適正であり、ごみ処理場に係る維持管理は適正に行われている。	自己分析： 検査数値は適正であり、ごみ処理場に係る維持管理は適正に行われている。	判断理由： ごみ処理場の安定した浸出水処理が実施されていることを把握し、ごみ処理場の維持管理の適正化が図られることから良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性				現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： ごみ処理場の維持管理において、適正な浸出水処理は最も重要なものであり、地域住民の理解を得ていくうえでも、当事業の継続は必要不可欠である。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：修繕件数 (工事請負件数含む)	指標の求め方：修繕件数 (日常的に発生するものであり、将来的な計画値の設定は困難。実績値を把握し、管理する。)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：施設破損等による事故件数	指標の求め方：施設・設備の破損・故障による事故件数 (事故件数は想定外のものであり、計画値は0と設定している。)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	13	12	15											
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					極めて良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： ごみ処理場は地域住民の理解を得、連携して維持管理を行っていかねばならない施設であり、環境の悪化を防ぐため恒常的に処理を行わねばならず、整備は管理する自治体の責務である。修繕については、発生しているが、計画的な基幹的設備の改修であり、施設機能が停止するなどの重大な事故に結びつくような故障は発生していない。今後処理を続けるためにも継続的な改修が必要である。	自己分析： 計画延長に向けた残余容量調査及び延長後の改修のための実施設計を行った。修繕については発生しているが、施設機能が停止するなどの重大な事故に結びつくような故障は発生していない。今後処理を続けるためにも実施設計の際に行った機能診断及び修繕計画に基づいた継続的な改修が必要である。	自己分析： 前年度作成した実施設計に従った延命化工事を行った。修繕については発生しているが、施設機能が停止するなどの重大な事故に結びつくような故障は発生していない。今後処理を続けるためにも修繕計画に基づいた継続的な改修が必要である。	判断理由： 老朽化した施設設備を適切に更新し、ごみ処理場の安定した浸出水処理が実施されていることから良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： ごみ処理場は一般廃棄物の最終処分場にあたり、施設設備を今後においても適正に維持管理していく必要があることから、当事業の継続は必要不可欠である。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：審議会開催回数	指標の求め方：回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：—	指標の求め方：成果指標の設定が困難であることから設定しない

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	1 1	1 1	1 1		1 1	1 1	1 1		1 1	1 1	1 1	1 1			
	成果指標 1 (単位/)	計画値 実績値															
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
		総合評価				良好である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 年1回の定例会議を開催し、一般廃棄物の状況、資源ごみ回収の状況、不法投棄対策の実施状況等について、実績を報告し協議を行うこととしていたが、新型コロナウイルス感染状況拡大により書面会議となった。各家庭及び事業者から排出される一人当たりのごみの量は前年と比べやや減少した。	自己分析： 年1回の定例会議を開催し、一般廃棄物の状況、資源ごみ回収の状況、不法投棄対策の実施状況等について、実績を報告し協議を行った。各家庭及び事業者から排出される一人当たりのごみの量は前年と比べやや増加した。	自己分析： 年1回の定例会議を開催し、ごみ処理場の計画期間延長に伴う廃棄物処理基本計画の変更について審議を行った。また、一般廃棄物の状況、資源ごみ回収の状況、不法投棄対策の実施状況等について、実績を報告し協議を行った。各家庭及び事業者から排出される一人当たりのごみの量は前年と比べ増加した。	判断理由： 市長の諮問に応じ、ごみの減量化や再資源化などの協議を行う組織であり、有識者や廃棄物処理業者、市民の代表で構成される委員の協議により、ごみ処理業務の適正化が図られている事から良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性				現状のまま継続													
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： ごみ処理行政の複雑化に伴い、今後とも廃棄物処理における様々な検討が必要な状況であり、当組織体制の継続は必要である。 これまでの当審議会の議題は各種の報告が主なものだったが、更なるごみの減量化・再資源化が求められている現状から、今後もこれらの問題について審議会委員から積極的に意見が出されるよう審議会の進行に工夫をし、ごみ処理に関する各問題の解決に結び付けていく。					R8：					R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 交付申請団体数	指標の求め方: 団体回収補助金の申請をした団体数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 資源ごみ団体回収量	指標の求め方: 団体回収により資源回収された量

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/団体数)	計画値 91	実績値 79	計画値 91	実績値 74	91	91	91		91	91	91	91		
	成果指標 1 (単位/kg)	計画値 649,000	実績値 466,518	計画値 649,000	実績値 417,836	649,000	649,000	649,000		649,000	649,000	649,000	649,000		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 計画値に比べ、申請団体数・回収量とも減少している。例年と同じく資源回収団体の構成員が減少していることも原因と思われるが、令和2年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により活動を控えた団体が多くみられ、回収事業者による回収品目の削減や回収要件の変更も影響している。今後も町内会衛生支部長会議などで制度の更なる周知を行い、実施団体や回収量の増加を図り、リサイクルの推進に努めたい。	自己分析: 計画値に比べ、申請団体数・回収量とも令和2年度に以来新型コロナウイルスの影響により活動を控えた団体も増えている。紙類の減少により回収金額、補助金共に減っているが、今後も町内会衛生支部長会議などで制度の更なる周知を行い、実施団体や回収量の増加を図り、リサイクルの推進に努めたい。	自己分析: 計画値に比べ、申請団体数・回収量とも計画値を下回っている。紙類の減少により回収金額、補助金共に減っているが、今後も町内会衛生支部長会議などで制度の更なる周知を行い、リサイクルの推進に努めたい。	判断理由: 今後も市民・事業者・行政の協働により、ごみの減量化やリサイクル化を基本とした地域社会づくりに取り組むことは重要なことである。回収量は減少傾向にあるが、市内の資源ごみの約6割が資源回収により回収されている実績から良好と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5: ごみの減量化・再資源化はごみ処理行政を推進し、ごみ処理の経費削減を目指すうえで非常に重要なものである。 現在、当事業は町内会等の団体が自主的な活動を行っており、大きな成果が得られていると思われるが、実施団体の高齢化や構成員の減少、排出するごみの性状などにより回収量が年々減少傾向となっている。 特に全体の9割を占める雑誌・新聞類の量の減少が顕著であるが、電子書籍の普及や購読数の減少によるものと思われ、致し方ないと考えられる。くるくる搬入量の約半分とほぼ同数が直接回収業者に引き渡されていることは、ごみ処理費の軽減に大きく貢献していると考えられるため、今後とも事業を継続していく必要がある。				R8:				R10:						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：ごみ処理手数料	指標の求め方：指定ごみ袋等処理手数料の収納額
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：間違っ出されたごみ件数	指標の求め方：指定したごみに警告シールを貼り付けた件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 実績値	46,150 48,435	46,150 46,598	46,150 44,679		46,150 46,150	46,150 46,150		46,150 46,150	46,150 46,150	46,150 46,150	46,150 46,150		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	2,150 1,504	2,085 1,280	2,022 1,270		1,961 1,902	1,844 1,844		1,788 1,734	1,681 1,681	1,630 1,630			
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					普通である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 各販売店における販売枚数が前年に比べ増えたことにより、手数料の収納額が増加した。また、不適切な排出には警告シールを貼り回収しない件数が前年と比べ減少しており、今後も引き続きごみ出しルールを市民に周知する必要がある。	自己分析： 各販売店における販売枚数が前年に比べ減ったことにより、手数料の収納額が減少した。また、不適切な排出には警告シールを貼り回収しない件数が前年と比べ減少しており、今後も引き続きごみ出しルールを市民に周知する必要がある。	自己分析： 各販売店における販売枚数が前年に比べ減ったことにより、手数料の収納額が減少した。また、不適切な排出には警告シールを貼り回収しない件数が前年と比べ減少しており、今後も引き続きごみ出しルールを市民に周知する必要がある。	判断理由： 指定ごみ袋や処理券を使用した分別収集は市民に浸透している状況であることから普通と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 指定袋や処理券を使用した現在の収集方式は、おおむね市民に浸透している状況から継続していく必要があるが、今後、新たなごみの減量化・再資源化につながる取り組みを強化していくことを検討していく。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：し尿処理件数	指標の求め方：し尿を収集し、処理施設へ搬入した件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：し尿収集量	指標の求め方：し尿を収集し、処理施設へ搬入した量

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	1,250 1,065	1,237 1,035	1,225 982		1,212	1,200	1,187		1,175	1,162	1,150	1,137		
	成果指標 1 (単位/ℓ)	計画値 実績値	912,000 726,000	902,880 726,520	893,760 712,100		884,640	875,520	866,400		857,280	848,160	839,040	829,920		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 下水道や浄化槽の普及、人口減少により、前年に比べし尿処理件数及びし尿処理量が減少している。	自己分析： 前年に比べし尿処理件数は減少、し尿処理量が若干増加している。	自己分析： 前年に比べし尿処理件数及びし尿処理量が減少している。	判断理由： し尿の収集・運搬・投入については現在の委託業者により問題なく業務が行われていることから良好と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 令和5年7月から令和11年8月までの収集運搬契約を委託業者と締結していることから、現行の収集運搬業務を基本的に継続しながら、状況に応じて委託業者と協議を行いながら事業を行っていきたい。					R8：					R10：					